

JCS NEWS

ASIA PACIFIC
CELLO
CONGRESS
2025

アジア・パシフィック チェロ・コングレス 2025

Report

CONTENTS

- 第8回ジュニア・チェロ・ 2-3
キャンプ開催報告
- チェロ・サロン開催報告 3
- アジア・パシフィック・チェロ・ 4-7
コングレス 2025 開催報告
- アウトリーチ実施報告 8
- Welcome
- 事務局からのお知らせ



千葉みらい響の杜学園へ
お邪魔しました！



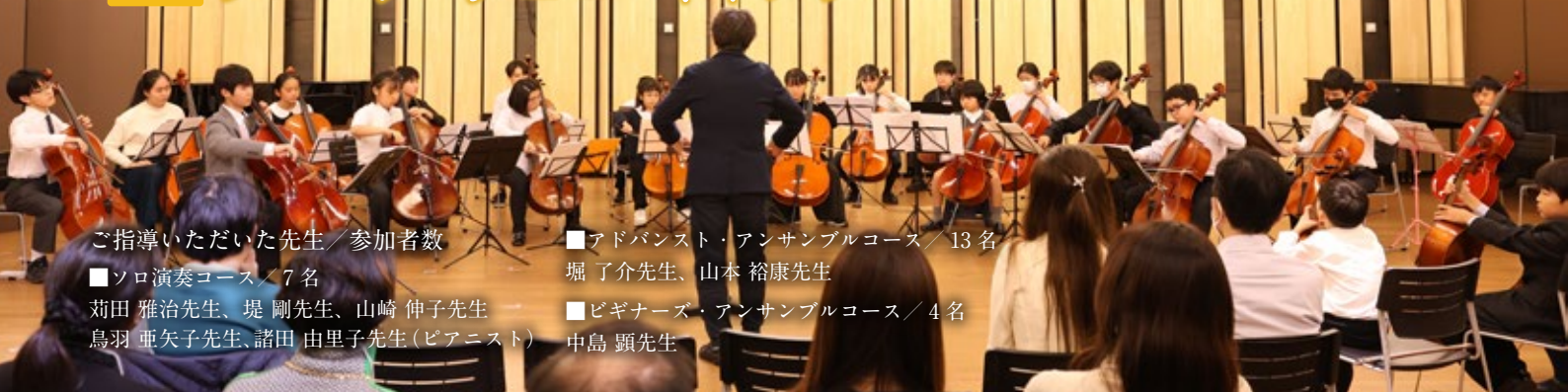
アウトリーチ実施報告

ジュニア・チェロ・キャンプ 開催報告



Junior Cello Camp

第8回 ジュニア・チェロ・キャンプ



ご指導いただいた先生／参加者数

■ソロ演奏コース／7名

荻田 雅治先生、堤 剛先生、山崎 伸子先生

鳥羽 亜矢子先生、諸田 由里子先生（ピアニスト）

■アドバンスト・アンサンブルコース／13名

堀 了介先生、山本 裕康先生

■ビギナーズ・アンサンブルコース／4名

中島 顕先生



令和6年12月7日（土）に桐朋学園大学調布キャンパス（東京都調布市）にて、第8回ジュニア・チェロ・キャンプを開催いたしました。

本来は、8月に2日間での開催予定でしたが、生憎台風上陸の影響により12月に延期、1日での開催となりました。可能な限り本来のアカデミーの内容に沿いながら、レッスンや発表会を実施し、会終了後に同会場で僅かな時間ですが懇親会を設けました。

参加予定だった方全員のご参加は叶いませんでしたが、全国各地から24名の小・中学生にご参加頂きました。日時変更に伴い、ご都合をつけてくださった参加者の皆様、そして講師の皆様、またこの度もご協力いただきました桐朋学園大学の皆さまには深く御礼を申し上げます。

山崎 伸子 先生より



前回もお聞きしましたが、今回お友達ができた人はどれくらいいますか？（半数くらいが手を挙げる）折角の機会ですので、ぜひ沢山お友達をつくって帰って頂きたいなと思っています。

合奏については、指揮・指導して下さった山本先生はアンサンブルがどんなふうにできてしまうことを大変心配されていたらしやいましたが、本番はとても良かったですね。

クリスマスも近いので時期的に曲もぴったりで、皆さんこの1年を何とか無事に元気で過ごせたと神様に感謝する思いで一緒に弾きました。

今回少し気になったのは演奏中の呼吸のことです。日本語は呼吸をしなくても、口先だけで話すことができますが、やはり英語やドイツ語はちゃんと喉を使って話すのでしっかりと呼吸をします。西洋音楽を演奏する際には呼吸はとても大切です。新しいフレーズに入る時、出だしの時等々、呼吸を取る練習をして下されば、音楽の流れやアンサンブルが上達するので、その点をいつも心がけましょうね。

今回はやむを得ず1日間開催となりましたが、次回は2日間開催し、また沢山お友達等を誘ってご参加いただけることを祈っています。

VOICE

参加者の声

●僕は小3から中3まで7年間ジュニアチェロキャンプのアンサンブルコースに継続して参加しました。なぜ7年間アンサンブルコースに参加し続けたかという点、色々な音が混じり合うことによって1人では表現できないような音の厚みを表現できる点、最初は友達同士ではなくても、音楽を通して会話をしてみんな一つになれる点でアンサンブルが好きだからです。また、やってみたいどんな音楽になるのかわからないところも魅力の一つだと思います。下のパートで弾いていたときは自分の曲を弾くことが一番楽しかったですが、上のパートで弾くようになってあたりを見渡すことの重要性を知りました。山本先生がおっしゃっていた「音楽は言葉と同じ」は本当で、どこで呼吸するかによって音楽が変わってきます。また、呼吸は最初の合図にも通じていました。自分の出す合図がわかりにくくて、自分が弾いてほしいスピードより遅かったりしたこともありました。わかる合図をすることはアンサンブルをきれいに演奏する上ではとても重要だと実感させられました。7年間ほんとうに楽しかったです。堤先生をはじめとするご指導いただいた先生方、スタッフの皆様、一緒にアンサンブルを演奏してくれたたくさんの参加者の皆様、ありがとうございました。

●先生が目のお手本を見せてくれたり、身体の使い方も対面で分かりやすくて、ずっと出来なかった箇所が出来るようになって嬉しかったです。また山崎先生に教わりたかったです。ありがとうございました。

●今までアンサンブルの経験があまりありませんでしたので、周りの人の音を聴きながら弾くことに難しさを感じておりました。一緒に練習すれば息が合って素晴らしい演奏になりました。楽しい経験となりました。

●一年で一番緊張する発表会でしたが、とても集中して楽しんで弾けたとおもいます。先生方に聞いてもらえた事が宝物です。

保護者さまより

●ジュニア・チェロ・キャンプで中島先生のレッスンを受講させて頂けたのは今年で3度目ですが、毎年大変充実した、とても楽しく、貴重な勉強をさせて頂き、心より感謝致しております。

発表会プログラム

ソロの部

C.サン＝サーンス：チェロ協奏曲 第1番 第3楽章	小5（神奈川県）
F.J.ハイドン：チェロ協奏曲 第1番 第1楽章	小5（台湾）
D.ポッパー：チェロ協奏曲 第2番 第3楽章	小6（東京都）
D.ポッパー：ハンガリー狂詩曲	中1（東京都）
D.カバレフスキー：チェロ協奏曲 第1番 第1楽章	中2（東京都）
D.カバレフスキー：チェロ協奏曲 第1番 第3楽章	中2（福岡県）
F.J.ハイドン：チェロ協奏曲 第2番 第1楽章	中2（東京都）

アンサンブルの部

1. W.A.モーツァルト：カノン
ビギナーズ・アドバンスト 合同アンサンブル
 2. D.フンク：組曲ニ長調より Adagio Allemand Air
アドバンスト・アンサンブルコース
 3. J.S.バッハ：主よ、人の望みの喜びよ
ソロ・アドバンスト 合同アンサンブル
アドバンスト・アンサンブルコース
小2(愛知県1名) 小4(東京都2名)
小5(東京都1名) 小6(長野県1名) 中1(東京都2名)
中2(東京都3名) 中3(東京都1名・山梨県1名・京都府1名)
- ビギナーズ・アンサンブルコース
小1(東京都1名) 小3(東京都2名) 小4(東京都1名)

山本 裕康 先生より



皆さんの演奏から「チェロを弾くことが楽しい」ということを感じる事ができ、私も昔楽しかったことを思い出しました。（今もちろん楽しいですが）高校・大学生になると先生方からも色々な事を教わるので、いつの間にか深刻になってしまっています。やがて哲学的な演奏に向かうのですが、やっぱり今日のような演奏や気持ちを常に忘れないでいてほしいなと思います。

先日、20歳の時に初めて弾いたドヴォルザークの演奏を聞く機会があり、今の私ではできないような澁刺さや、若々しさがあって、音もすごくキラキラしていました。皆さんには最後まで「楽しく弾く」気持ちを忘れないで、これからの頑張って、楽しく学生生活を送っていただきたいなと思いました。

中島 顕 先生より



今日は私たちのほうが沢山元気をもらいました。1日だけでも実現できて本当に良かったです。し、やはり皆で集まってやるという事が、どれだけ大事な事かと実感しています。例えばテクニクや知識は、現代はいかようにも手に入れることができるけれど、一同に会して、ご飯を食べながら電車や学校クラスの人数等：話が広がってき、音楽（キャンプ）を通して色々な体験ができるのだなと思いましたし、このような集まる機会は絶対大事にしたいなと思います。

私自身、コロナ禍に失ったものは大きく、なかなか取り戻せずにいますが、反対に今こそ何か新しいものを作ろうと頑張ることが大切で、それにはやはりこのような集まる機会が本当に必要だと思いました。来年もぜひ来てくださいね。



参加者数

講師：1名／クリニック受講生：2名／アンサンブル参加者：29名／聴講：6名

合計40名（会員：31名・非会員：4名・スタッフ：5名）

奏 年紀さん コダーイ：無伴奏チェロソナタ 第1楽章／田中 渚さん ブラームス：チェロソナタ 第1楽章／アンサンブル曲 クレンゲル：讃歌

ワンポイントクリニックを受講して

R-655 奏 年紀

受講曲であるコダーイの無伴奏チェロソナタは、これまで人前で何度か演奏してきましたが、リスト音楽院出身の金子鈴太郎先生のクリニックということで、ハンガリー語やハンガリーの風土に基づいた表現を深めようと受講しました。クリニックでは、まさしく、言葉の最初にアクセントがあるハンガリー語のイントネーションの特徴や、見渡す限り地平線が続く風景から感じるイメージに即した表現のヒントをたくさんいただきました。また、曲中のフレー

ズにおいて、どんどん向かってゆくところ、逆にほどけていくところはどこなのかをよく考えて表現に活かすこと、向かってゆくところの頂点の大切な音で緊張が抜けて死んだ音にならないようにすること、フレーズ中でどんな音を出すのかをよく考えて弓の圧力とスピードの組み合わせをいろいろ試してみること、などをアドバイスいただきました。どれも私にとって非常に大きな収穫だったと思います。本当にありがとうございました。

Cello Salon

チェロ・サロン
開催報告

2024年10月26日（土）にサントリーホールのリハーサル室にて、金子鈴太郎さんの主宰によるチェロ・サロンが開催されました。今回で49回目となります。

金子さんは、桐朋学園ソリスト・ディプロマコースを経て、ハンガリー国立リスト音楽院で学ばれ、国内外の様々なコンクールで優勝や入賞をされています。バロックから現代曲までの幅広いレパートリーを演奏し、2003年（2008年大阪交響楽団首席チェロ奏者（特別首席も含む）として活躍され、現在は各オーケストラにゲスト首席として招聘されるほか、サイトウ・キネン・オーケストラ、ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラ等で活躍中です。

2025年2月14日（金）～16日（日）の3日間、「アジア・パシフィック・チェロ・コンGRESS 2025」が開催されました。

「世界はもっと響きあう」という副題のもと、国内に留まらず、海外からの参加者を含め、総勢約200名のチェリストやチェロ愛好家の皆様が一室に会しました。会期中、サントリーホールにおいて5つの演奏会、マスタークラス、ワークショップ、子どものためのコンサートを企画し、様々な形でチェロの可能性と素晴らしさを体感、チェロを満喫、大盛況のうちに幕を閉じることができました。

Photo: © 藤本 崇

ASIA PACIFIC CELLO CONGRESS 2025

2/14 [FRI]

ステファン・ブラウン、上森祥平、上村文乃、北口大輔、小林幸太郎、西谷牧人（チェロ）
阪永珠水、マレー飛鳥（ヴァイオリン）黒木岩寿（コントラバス）菅沼起一（リコーダー）
重岡麻衣（チェンバロ）鈴木潤、林正樹（ピアノ）



コンサート詳細

19:00 開演

ブルーローズ・バレンタイン・ナイト

チェロ・コンGRESSにご参加、ご出演、ご来場下さった皆様ありがとうございました。私は今回コンGRESS全体の裏方として、取り分け初日のチェロ史上初ジャズ & バロック共演企画を担当させて頂きました。アイデアを実現させるまで大変な数ヶ月でしたが、当日繰り上げられた圧巻のパフォーマンスの数々に会場大いに盛り上がりしました。

リハ初日からジャズ & バロック双方の皆さんが打ち解けた雰囲気の中

その場で様々なパッセージを思い付き、未体験の音楽がどんどん組み上げられていく様は、正に鳥肌の立つような体験でした。昨今世界が大きく閉じて行くように感じられる中、チェロを通して開かれた未来を垣間見る事が出来た貴重な機会に感謝しております。

また3日間全てのイベントにご出席下さった堤剛理事長の音楽に対する熱意、バイタリティにはこちらも奮い立つような元気を頂きました。同時に事務方で支えて下さった皆様の奮闘にも感謝しております。今後より多くの方々のお力添えを願いながら、次回のご成功を心よりお祈り申し上げます。（上森 祥平）

2/15 [SAT]

新倉瞳、香月麗、西田翔、矢部優典（チェロ）佐藤芳明（アコーディオン）
アラン・バーン（アコーディオン/ピアノ）マーク・コヴナツキー（ヴァイオリン）

12:00 開演

東欧の風に誘われる午後

クラシック音楽と深く繋がりがながらも、クラシック音楽の世界に生きる我々にとっては想像し得難い楽譜を使わぬ音楽の継承スタイルが特徴的なクレズマー音楽。コンサート形式でこの奥行きをお届けするにはあまりにハードルが高く悩みましたが「東欧」という言葉をキーワードにしクラシックとクレズマーが響宴するプログラムを組みクレズマー界のレジェンドでありヤーノシュ・シュタルケル先生とも親交があったアラン・バーンさん、そしてマーク・コヴナツキーさんをご紹介することが叶いました。

アランさんとマークさんが魅せてくださる伝統的なクレズマーと若手のチェリストの皆さまの輝かしさをクレズマーの東欧の伝承歌 Nign がテーマの佐藤芳明さん作曲「Nignの主題による7つの変奏曲」が繋ぎ、セッションコーナーでは会場全体がひとつになりました。

日本チェロ協会の皆さまをはじめ、この時を共有くださいました皆さま本当にありがとうございました！（新倉 瞳）

14:15 開演

茶の湯とチェロ

2月15日の「茶の湯とチェロ」を担当いたしました片山です。この度は誠に有難うございました。お客様をはじめ、共演して下さった門脇さん、佃さん、スタッフのみなさま、日本チェロ協会のみなさまに厚く御礼申し上げます。

開演前の「調弦+お調べ」から「文楽」の演奏が終わるまでの約30分間、主客が一体となり、会場には凜とした緊張感が漂いました。演奏後のトークでは、同世代のメンバーが集まった経緯や舞台作りの過程などをご紹介し、「なるほど。そういうことだったのですね」というお声を多く頂戴しました。また、静寂の中に響くお点前の音や所作などにも関心をお寄せいただき、何より嬉しく存じます。

今回のコラボ企画をきっかけに、分野や国境を超えたご縁をチェロが繋いでいくことを願いながら、今後とも精進を重ねて参ります。改めまして、このような機会を与えてくださった日本チェロ協会のみなさまに、心より感謝申し上げます。（片山 実）

2/15 [SAT] 17:30開演 チェロ協奏曲のタベ



上野通明、上村文乃、ヤン・ソンウォン(チェロ)
大友直人(指揮)、東京フィルハーモニー交響楽団

2/16 [SUN] 14:00開演 チェロ・グランド・コンサート



第1部 ジュニア・チェロ・オーケストラ



第2部 プロのチェロ奏者によるアンサンブル

小川剛一郎、北村陽、グレイ理沙、笹沼樹、高木慶太、築地杏里、中実穂、福岡茉莉子、堀了介、松波恵子、三宅依子、山崎伸子、ステファン・ブラウン、ジャネット・チェン、ソジン・ホワン



第3部 チェロ・オーケストラ

山本祐ノ介(指揮)、プロアマ混合のチェロ・オーケストラ





講師：ヤン・ソンウォン
通訳：高島 まき

S-215 野崎 稜冬

J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲第2番 ニ短調 BWV1008より プレリュード

このたびはヤン・ソンウォン先生のレッスン受講の機会を設けていただきありがとうございました。以前から録音などを聴いて、先生のように聴き手にもものすごく強くメッセージが伝わる演奏をする方はいったいどんなことを考えて曲を構成していくのだろうかと思うと共にとってもリラックスしてレッスンを受講できるようになりました。それから先生はバッハをLEGOに例えました。どこに土台を作り壁や窓をつけるか決めるようにひとつひとつの音やフレーズについて細かくアイデアを出していたきどんどん自分の曲に対するイメージがふくらんでいきました。そうして曲全体のなかでどのフレーズのどこの和音が何の役割を果たすかのマップが出来上がり、今ひいている音の現在地を明らかにしていくことでどんな表現をすればいいかぼんやりしていた箇所もメッセージを込めることができるようになったと感じました。また、先生が道のりという言葉を用いているのも印象的でした。

レッスンは規定の時間に達し一度は終了したのですが、自分がまだ気になっていることを質問するとわざわざ別の控え室まで案内してくれ、丁寧に答えていただき先生のチェロに対する情熱を感じました。



講師：堤 剛

S-209 堂向 純央

ピアノ：立川 己晴

J.ハイドン：チェロ協奏曲 第2番 ニ長調 Ⅱアダージョ、Ⅲアレグロ

聴講してくださる沢山の方々の前で初めに演奏をしました。とても好きな曲でありながら、技術的なことから自分を解き放つことができないように感じていました。堤先生は「チェロを弾くことは歌うことと同じ」と仰いました。旋律を弾く時、呼吸することが如何に重要であるかレッスンを受けながら身体で理解することができました。また音を出す前から理想の音を思い描くことを意識して行いました。次に先生は「今起きていることと先のことを同時に考える二つの思考のライン」についてお話してくれました。長く構成されたフレーズは、今弾いている箇所細かく神経をはらうだけではなく、何小節か先で何が起るかを知っている必要があるということを知りました。先生から頂くアドバイスは、腕の使い方や思考の準備、顔の角度や視線の方向、力の抜き方と様々であり、それを実践する中でチェロと自分が繋がったように感じられる瞬間がありました。よい音楽が奏でられる度に何度も拍手で応援してくださいました。今回得た全ての学びを日々の練習に生かしていきたいと思いました。

そしてチェロを弾くことと同時に人としても成長していけるように頑張ります。貴重な機会を与えていただき本当にありがとうございました。

WORKSHOP & CONCERT

ASIA PACIFIC
CELLO
CONGRESS
2025

Day 1



申込者を対象に福富祥子さんによる音楽家のための身体メソッド・ワークショップが行われた。

Day 3



ブルーローズでは、おとみっくの坂本夏樹さん、チェリストの高橋麻理子さん、荒井結さん、黒田りさん、鈴木皓矢さんによる、0歳から入場可能な親子で楽しむチェロコンサートが開催された。演奏会後はチェロの体験コーナーを設置。

VOICE

R-312 伊藤 七生

チェロ・コンGRESSは、『チェロを通して世界とつながる』ことが出来るのが強みだと改めて感じる経験ができました。いろんな国の人とひとつの音楽をつくり、国境の線や経済、報道のつた面だけではない、チェロを通じた個人間の交流により、それぞれの視野がひろがり、相手を仲間と感ずる、国際平和につながる経験になるように思いました。演奏者だけでなく、お客様にとってもそうだと思っています。

グランドコンサートにお客様としていらした方々（いずれもアマチュア・チェリスト）は、チェロの音の幅広さを感じられてとても満足していました。中国出身の生徒さんは、里の秋をテレサテンが「又見炊煙」として歌っているため、懐かしい気持ちになったとのこと。

近頃ミャンマー情勢が不安視されているので、ソー・ジェームスさんがご参加でき、コンGRESSで出会えて本当によかったです。



講師：ソジン・ホワン

通訳：高島 まき

S-224 後藤 深和音

ピアノ：田中 英明

E.W.エルガー：チェロ協奏曲 第4楽章

チェロコングレスの公開マスタークラスを受講させて頂き、ありがとうございました。海外の先生にレッスンして頂くのは初めてで、とても緊張しました。しかし、ソジン先生はとても気さくに話しかけてくださり、リラックスして演奏することができました。また、通訳の高島さんも落ち着いて私に話して下さり、ちゃんと先生の仰ったことを理解することができました。

今回、エルガーのチェロ協奏曲第4楽章をご指導頂きました。冒頭部分の長いフレーズをビブラートが途切れないように繋げてと指摘を受け、実践後すぐに自分の音が理想としていたものに変わったのを感じ、とても感動しました。この曲は2024年7月頃から勉強し初め、2025年2月まで5回の本番で演奏しました。本番を繰り返すほどエルガーというのが分からなくなり、表現にとっても苦しんでいました。今回新しい刺激や発見を求めてレッスンを受講させて頂きましたが、たくさんの学びをこの身体で体感し、私の中の世界が広がり本当に心から曲を好きになることができました。50分間がとても濃く、充実していてあっという間でした。またソジン先生にご指導頂きたいです。本当に楽しかったです。最後になりますが、この素晴らしく貴重なマスタークラスを開催し、参加する機会をくださった日本チェロ協会の皆様に心より感謝申し上げます。



講師：ジャネット・チェン

通訳：高島 まき

S-244 河田 実聖

ピアノ：望月 晶

J.ブラームス：チェロソナタ第1番 第1楽章

このたびはマスタークラス受講の機会をいただき、ありがとうございます。

ブラームスのソナタは憧れの曲でしたが、冒頭部分を思うように演奏できないのが悩みでした。声に出して歌ってから楽器で演奏し、そのうえで右手をリラックスさせて、重みのバランスをとるように教えていただいた後は、思い描く演奏に近づけた気がします。またビブラートは左手の筋肉をリラックスさせるためのもので、顔にも力を入れないで、と脱力を中心にとても細かくご指導いただきました。

私の楽器にはF#にウルフがあり、ウルフキラーで少し軽減されるものの、その分音量が失われてしまうため、使用せず気にしながら音を出していました。先生は「こわがらないで」と、ウルフキラーをつけずに工夫してウルフを軽減する貴重な演奏法を教えてくださいました。今後は、曲の中でも生かせるよう研究していこうと思います。

そして、うつむきがちに演奏してしまいがちですが、「あなたが宇宙の中心だから」という堤先生の言葉を引用して鼓舞して下さり、堂々と上を向いて弾くことの大切さも説いてくださいました。

今後は、これらを自分のものにして、演奏に生かしていけるよう日々努力して参ります。

最後になりましたが、マスタークラス開催にご尽力くださったチェロ協会や関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



Photo: © 藤本 崇



2/14 [FRI]

開催日：2025年2月14日（金）

会場：サントリーホール リハーサル室



講師：ステファン・ブラウン

通訳：林 美樹

R-727 成田 七海

マーク・サマー：演奏会練習曲第1番
「Julie-O」 Pattern Language

ステファン・ブラウンさんの公開マスタークラスの受講生に選んでいただきありがとうございます。私はクラシック以外の音楽家とも共演する機会が多く、オルタナティブな表現を深めていくことに面白さを感じていました。独学でジャズを勉強する中で参考にしていたチェリストの一人がステファンさんだったので、今回の機会は夢のような時間でした。受講曲はMark SummerのJulie-Oのモチーフを展開したエチュードを選びました。リズムが印象的なモチーフに対するアプローチは、クラシカルな奏法とは違い、私にとって青天の霹靂でした。けれど、それを実現する右手の細やかな技術とその練習方法を、セッションを交えながら教えてくださり、音楽の楽しさを丸ごと手渡されたようでした。体格や指の長さが違う私が新しい奏法に挑戦したい時に必要な視点を明確にしてくださり、今まで手探りで練習していた私の視野がぐんと開けたことを感じました。

ジャズとクラシック双方の交点に立つチェリストとして、また未来に語り継ぐ奏法の先駆者として、彼の来日を企画してくださった日本チェロ協会の意義はとても大きいと思います。ありがとうございました。



アウトリーチ実施報告



日時：2024年9月14日(土)

実施場所：千葉みらい響の杜学園

参加者：伊藤悠貴、小林幸太郎、瀬戸真愛、滝川桃可

R-448

伊藤 悠貴

今まで何度か携わり、そのどれもが私にとっては特別な思い出があるアウトリーチ。今回は千葉市にある「響の杜学園」というところで行いましたが、小学生から高校生まで、幅広い年齢の子供たちが食い入るように演奏を聴いてくれました。演奏だけでなく、「僕の楽器は何歳だと思っ？」と途中で始めたクイズでは、誰もが目を輝かせながら私の楽器を眺めてくれたのが印象的でした。終演後に職員の方が「こんなに落ち着いて座っていられることってあまりないんです」と仰っていました。今回のチェロアンサンブルは奏者から1mも離れない至近距離のコンサートで、後から聞いたところ床からかなり振動が伝わっていたとのこと。この度の演奏が、彼らの今後の音楽の捉え方や、人生の彩などでプラスになることを心より願っております。

S-210

滝川 桃可

千葉みらい響の杜学園の皆さまと、チェロカルテットを通じて、大変貴重な時間を共にさせていただきました。小学生から高校生までの幅広い年齢の子供たちが、チェロ4本の厚みのあるハーモニーに耳を傾け、最後の「となりのトトロより／さんぽ」では手拍子が起り、会場全体が一体となりました。園を後にする時、チェロってどのくらい重い？と話しかけてくれて、ハイツチをしてお別れをしました。同じ空間で、チェロの響きに皆で包まれ、音楽を通して親しくなれたことに、大変嬉しく思いました。子どもたちの生活や心の中に、少しでも音楽や楽器への関心が増え、音楽に対してプラスのイメージを持つてくれたら。そんな、人生の1コマに自分が関わることができたなら、とても幸せなことだなと思いました。今回、伊藤悠貴さん、小林幸太郎さん、瀬戸真愛さん、3人の素晴らしいチェリストと共演させていただきました。幸甚でした。また、誰もがどこかで聞いたことがある日本のメロディを散りばめた、小林さんの素敵な編曲が、子どもたちの耳に新鮮に届き、わくわくとした空気に包まれました。響の杜学園の方々、チェロ協会の皆さま、共演してくださったお三方、皆さまに沢山のお心遣いをいただきました。どうもありがとうございました。

WELCOME

2024 年度 新規入会者のご紹介（ご入会順）

今年度は、新たに 44 名に加わっていただきました。

正会員 33 名

島田 裕基 さん	浅香 真理 さん	吉田 泰子 さん
横谷 正博 さん	松原 知子 さん	山中 洋子 さん
西尾 文和 さん	桂山 美枝子 さん	加藤 紀子 さん
武田 浩子 さん	永井 友子 さん	宮内 ふみ子 さん
太田 理子 さん	里見 康 さん	相澤 郁 さん
下島 万乃 さん	田中 いずみ さん	田川 誉之 さん
中 実穂 さん	中尾 彩子 さん	大林 ひとみ さん
新角 卓也 さん	マッケンジー 友紀 さん	古川 雅啓 さん
中島 邦子 さん	大久保 陽一 さん	成田 七海 さん
鈴木 孝子 さん	壺内 敦史 さん	安藤 新樹 さん
山本 昭夫 さん	梅本 千枝子 さん	森田 喜晴 さん

学生会員 9 名

小野 順平 さん
藤野 真美 さん
重岡 ノア さん
夏目 さくら さん
宮之原 陽太 さん
市村 悦味璃 さん
植松 うた さん
小寺 千尋 さん
大峽 碧葉 さん

賛助会員 1 名

株式会社 ツイル

事務局からのお知らせ

2025年度主催イベントのご案内

■チェロ・サロン

日程：2025年9月28日(日)

会場：サントリーホール リハーサル室

講師：新倉 瞳

■第9回 ジュニア・チェロ・キャンプ

日程：2025年9月6日(土)・7日(日)

会場：東京音楽大学 中目黒キャンパス

■第14回 チェロの日

日程：2026年1月17日(土)・18日(日)

会場：サントリーホール ブルーローズ

編集後記



9月に実施したアウトリーチ先「千葉みらい響の杜学園」の皆さまから、心温まる素敵なメッセージをいただきました。今後もより多くの皆さまにチェロの音色を届けていきたいと思ひます。

チェロ協会の公式サイトに情報を掲載できます

チェロ協会の公式サイトでは、公演情報や会員の皆さまのチェリストとしてのプロフィールを無料で掲載しております。ぜひ情報をお寄せください。

チェリストを探す



公演情報



一般財団法人 日本チェロ協会 (JCS NEWS) 第 65 号

2025 年 4 月 21 日 発行

発行 一般財団法人 日本チェロ協会

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル 19 階 私書箱 509 号

電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310 E-mail office@cello.or.jp

発行人 堤 剛

編集 日本チェロ協会事務局

編集協力 株式会社アイデアリズム